

2010 年度海外大学・研究機関調査報告 (高垣敏博)

スペイン セビリア大学

2010 年 3 月 22 日 5 時にセビリア大学(Universidad de Sevilla)付設の語学センター(Instituto de Idiomas)を訪問。センターの専任教員沖田綾美 (東京外国語大学スペイン語専攻出身) と面談し、センターにおける日本語教育全般について概要を聞く。その後、センター長マリ・クリスティ・オルソニ Marie-Christie Orsoni 氏とセンター長室にて 40 分程度面談。夜 7 時 30 分から沖田氏のレベル 3 の授業を参観。「もし～なら、～しています」の仮定表現を練習 (宿題として例文を収集) していたが、筆者も参加した。スペイン最大の祝祭日 Semana Santa (聖週間) 直前とあって本来 20 人程度履修のところ 10 数人の出席であった。

日本語は専門科目ではないにもかかわらずみんなよくできる印象をもった。学生の日本語学習の動機にはマンガ・アニメ 3 人、日本文化 (書道、墨絵) 1 人、観光ガイド 3 人 (男性 2、女性 1)、武道、ことばそのものに興味、など多様であった。日本人がよく訪れる観光地セビリアならではの事情も関係あるようだ。

セビリア大学沿革

スペイン南部アンダルシア地方最大の多学部、7 万人をこえる学生を擁する総合大学である。1996 年より本学と交流協定を結ぶ。毎年 3 名の外大生を派遣し、3 名のスペイン人学生を受け入れている。キャンパスはいくつかあるが、本部はビゼーのオペラ、「カルメン」の舞台になった有名な「王立タバコ工場」跡を利用している (写真下左)。付設の言語センター(Instituto de Idiomas)で 10 の外国語が履修されている。

センターの教員数は 2010 年現在計 57 人で、内訳は英語 26 人、フランス語 10 人、ドイツ語 7 人、イタリア語 4 人、スペイン語 5 人。日本語は少数言語グループ(Idiomas minoritarios)に属し、他の言語では専任教員各 1 名のところ日本語は 2 名 (木内都, 沖田綾美) である。



大学本部になっている旧タバコ工場



語学センター



近くにある黄金の塔 (Torre de Oro)

言語センター(Instituto de Idiomas)における語学教育

セビリア大学における語学教育は 2009 年までは、単位認定はしていたものの自由科目であった。市民にも開放されている。2010 年からスペインの大学に導入された新しい学士履修制度(grados)や修士課程(Máster)にともない、必修化されることになった。4 年間でスペイン語も含めて 11 言語の中から 1 言語を履修。ヨーロッパ言語参照枠(Marco Común Europeo de Referencia para las Lenguas)の B1 レベルを履修・達成することが必須となった。そこで、各言語で「参照枠」との整合性をもたせる工夫がなされている。各言語の検定試験などのレベルにより認定するが、英独仏伊などの主要言語と少数言語(ギリシャ、ロシア、ポルトガル、アラビア、日本、中国)とで履修年限を 2 年ないし 4 年、また目標レベル(主要言語は C1、少数言語は B1)と異なる基準を設定して差別化を図っているとのことである。

2009 年-2010 年正式登録および随意選択科目として履修する学生数											
	レベル 1		レベル 2		レベル 3		レベル 4		合計		合計
	正式	随意	正式	随意	正式	随意	正式	随意	正式	随意	
英語	804	3201	652	1681	139	560	89	149	1684	5591	7275
フランス語	126	847	86	308	42	75	20	29	274	1259	1533
イタリア語	82	586	32	129	11	18	14	13	139	746	885
ドイツ語	91	342	40	106	18	45	23	14	172	507	679
日本語	49	106	18	41	19	16	4	9	90	172	262
ポルトガル語	34	88	24	17	12	11	10	4	80	120	200
アラビア語	22	57	17	16	13	13	8	0	60	86	146
ロシア語	13	19	8	3	3	3	11	4	35	29	64
ギリシャ語	8	14	2	3	3	2	9	2	22	21	43
中国語	38	45	28	28					66	73	139
	1267	5305	907	2332	260	743	188	224	2622	8604	11226

日本語教育

日本語では、学年によって必要達成レベルとしてヨーロッパ参照枠レベルとの対応を以下のように設定している。

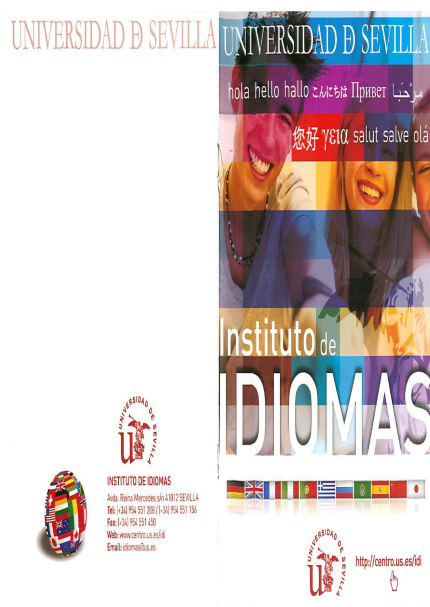
学年 参照枠レベル

1 年 A1-1

2 A1-2

3 A2

4 B1



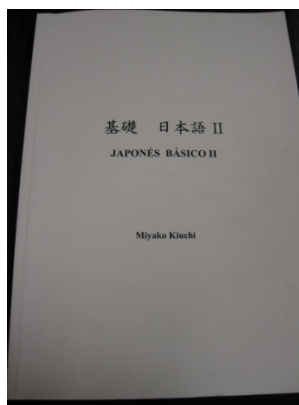
言語センターのリーフレット

日本語の場合、日本語能力試験との整合性は難しく、4,3 級は取得するが、2 級については日本語留学などを経ないかぎり達成は困難であるとの話である。

授業運営は授業計画(bloques)でテーマを決める方法を導入し、共通参照枠に合わせる努力をしている。2011 年から webct (e-learning)を義務化する予定であるとのこと。教員はこれにより学生への指示など情報提供を行う義務をもつようになるとのことである。



沖田綾美先生



センターの日本語教科書



レベル 3 のクラス

なおセンター長の話では、日本語と比べ最近の世界情勢を反映してか中国語の重要性が増大しているようである。2009 年に新設されたが、いまのところまだ日本語学習者数にはまだ追いついていない（半分ぐらい）。しかしすぐに抜く勢いで中国は参照枠に合う中国語の基準をすでに設定し（新 HSK 基準は 6 レベルで参照枠に合わせてある）、そのエネルギーには驚ろかされるとのことである。

スペイン マドリード自治大学

2010 年 3 月 27 日にマドリード自治大学(Universidad Autónoma de Madrid)を訪れた。日本語教育はアラビア語・中国語とともに「アジア・アフリカ研究の学士課程」の一つの専門課程を構成している。これまで、「東アジア研究センター」(Centro de Estudios de Asia Oriental)で日本学と中国学の 2 つの分野において 3,4 年生向けの専門課程を担当していたが、この度 4 年一貫教育課程(grado)として再編され、新たにアフリカとまとめられることになった。

Descripción de los Estudios

¿Por qué un Grado en Estudios de Asia y África?

- Asia y África constituyen dos zonas del mundo en clara emergencia en el nuevo contexto de la globalización.
- En Asia y África conviven lenguas, sociedades y culturas dispares de creciente protagonismo geopolítico, económico y cultural.
- Es preciso responder a la demanda de un mayor conocimiento de las regiones árabe e islámica y de Asia oriental desde una perspectiva de saberes y cooperación multidisciplinarios.

¿Para qué un Grado de Estudios de Asia y África: Árabe, Chino, Japonés?

- Para profundizar en la comprensión de las sociedades y culturas de Asia y África desde la competencia lingüística, la interdisciplinariedad, la flexibilidad de pensamiento y las habilidades interculturales.
- Para formar profesionales que dispongan de competencias específicas en el desarrollo de labores en relación con países, sociedades y culturas de Asia y África.

¿Qué distingue al Grado de Estudios de Asia y África: Árabe, Chino, Japonés?

- La especialización en uno de sus tres itinerarios lingüístico-culturales: árabe, chino, japonés.
- El dominio de una de las tres lenguas de cada itinerario: árabe, chino, japonés.
- La ampliación de formación en segundas lenguas propias de Asia y África, como persa y turco.
- La integración de diversas disciplinas de las humanidades y las ciencias sociales.
- La posibilidad de una estancia reglada de 30 ECTS en una universidad del mundo árabe o de Asia oriental, además de en otras de Europa y América con estudios de área semejantes.

Conocimientos y Capacidades que adquirirá el Estudiante del Grado en Estudios de Asia y África: Árabe, Chino y Japonés

En relación a las habilidades y los conocimientos lingüísticos:

- Podrá utilizar la lengua árabe, china o japonesa en un nivel de comprensión y expresión adecuado entre un usuario básico y un usuario independiente, dependiendo de si se trata de competencias orales o escritas.
- Conocerá un idioma europeo moderno a nivel escrito.
- Tendrá nociones de una segunda lengua de Asia y África.

En relación a los conocimientos y habilidades multidisciplinares en el estudio del área:

- Conocerá un área concreta de Asia y/o África mediante un aprendizaje multidisciplinar basado en diferentes instrumentos metodológicos.
- Será capaz de distinguir las particularidades culturales, lingüísticas, antropológicas, artísticas, religiosas, literarias y científico-tecnológicas del mundo árabe e islámico o de Asia Oriental.
- Aprenderá conceptos básicos para interpretar el desarrollo histórico, político y económico de sociedades tradicionales y contemporáneas de Asia y África.
- Reconocerá las dinámicas de cambio social en la región planteadas en un contexto global y teniendo en cuenta su impacto en el ámbito internacional.

MÁS INFORMACIÓN EN:

- Oficina de Orientación y Atención al Estudiante
- Teléfonos: 91 497 50 15 / 49 90
- <http://www.uam.es/estudiantes/acceso>
- Facultad de Filosofía y Letras
- viceconsejero.filosofia@uam.es
- coordinacion.estudios.asia.africa@uam.es
- <http://www.uam.es/centros/fyoletras/default.html>

Grado en Estudios de Asia y África: Árabe, Chino y Japonés

中国学
日本学
الدراسات
العربية
و الإسلامية

excelencia UAM CSIC

UAM
UNIVERSIDAD AUTÓNOMA
MADRID

Este folleto tiene carácter meramente informativo, por lo que no podrá utilizarse como base de ningún recurso.

新課程の案内リーフレット

9 時に木村千枝子先生（本学スペイン語科出身専任教員）とその後に高森絵美先生（本学大学院日本語教育学コース出身招聘教員）と面談、当大学における日本語・日本文化教育の概要を聞く。さらに、高森先生担当の授業を参観させてもらった。10 名程度の学生が受講、「時間が止まってほしいと思うのはどんなときですか？」という質問にそれぞれが思いおもしろい回答をしていた。ここでも、日本語学習の動機を尋ねてみた。5 人が忍術、剣術など武道が多いのが目立った。その他、日本文化 1 人、ジャーナリズム 1 人、東京外国語大学に交流協定で留学していた Pablo Alonso 君や奨学金で大阪に 3 週間滞在経験をもつ女子学生も含まれていた（日本はくだものや肉など食べ物が高いので、日本経験者は最大 10 キロ程度やせるのが普通だが、この女子学生は 4 キロ太ったとのこと）。日本語学習の最大の動機としてマンガやアニメが多いが、次第にそのような学生は脱落するのではとの筆者の質問に学生たち同意していた。

マドリード自治大学

マドリード市街の北バス（および郊外電車）で 15 分ほどのところに広々なキャンパスを擁するマドリード自治大学がある。創立 1968 年で比較的新しいが、医学部・大学病院を含む総合大学である。



大学に近いカスティリア広場



キャンパス



キャンパス内の鉄道駅

日本語教育の沿革をたどってみる。

1993 年度より第 2 外国語として学部内に初めて日本語講座が設置。

2003 年度より大学学士課程後期 2 年間の東アジア研究学士課程が設置される。

2009 年度からは大学教育体制の変革に伴い従来の学士課程に代わって新たに 4 年間の大学
学士専門課程（Grado）としてアジア・アフリカ学課程が新たに設置された。

本学との交流については、

2004 年 12 月 交流協定を締結。毎年 3 名の学生を交換している。

2005 年度からは大学院日本語教育専修コースの修了者を客員教員として招聘。

日本学の専門課程をもつのはバルセロナ自治大学とともにスペインでも数少ない大学
の一つである。

日本学課程

アジア・アフリカ学課程の定員 90 名の内訳は本来 30 名ずつのところ、現在は、日本
45 人、中国 35 人、アラビア 10 人となっている。



高森先生の授業にて

① 教育目標（学年ごとの日本語等の学習目標と内容）

第 1 学年：週 3 時間、年間 90 時間の授業で日本語の言語的特徴およびヨーロッパ言語共通
参照枠組み（CEFR）の A1 レベル前半に相当する日本語の基礎的な 4 技能（読む・書く・
聞く・話す）を学習。

第2学年：週3時間、年間90時間。CEFRのA1レベル相当。

第3学年：週4時間、年間120時間。CEFRのA2レベル相当。

第4学年：週4時間、年間120時間。CEFRのB1レベル相当。

② 授業科目

日本語1～4（第1・2学年）

中級日本語1・2（第3学年）

中上級日本語1・2（第4学年）

③ 主な使用教材

「みんなの日本語初級および中級」（出版・スリーエーネットワーク）

「Basic Kanji Book および Intermediate Kanji Book」（出版・凡人社）

マドリード自治大学(Ediciones UAM)出版のテキストとして、

「Manual de Lengua Japonesa／日本語マニュアル」（高木香世子、高森絵美共著）

などを使用。

④ 教員

6名（日本人4名・スペイン人2名）。専門は日西対照研究、スペイン語話者への日本語教育、日本語コーパスによる教材開発など。そのほか日本の文学、経済、美術史等を専門とする教師も日本語教育に携わる。

⑤ 学生



日本文学専攻の学生たちが編集する日本語新聞

日本語・日本文化学習の動機としては、「一般的にアニメ・漫画あるいは映画やJ ポップなどの現代日本のサブカルチャーを通して日本や日本語に興味を持った者が大半を占める一方、伝統的な日本文化に興味のある者は少数にとどまっている。純粋に言語学的興味を持つ者も少なくない」（調査アンケートより）。

学生の進路としては、「各国の大学や大学院への進学（日本・スペイン・米国・フランス等）。日本人学習者に対するスペイン語教育。スペイン企業の日本支社、日本の独立行政法人や日系企業のマドリッド支部等への就職。スペイン国家公務員（司書・教師等）。その他一般企業など」（調査アンケートより）となっている。

マドリッドにおける日本語教育機関

2010 年の段階で、マドリッド市内に 3 つの日本語・日本文化に関する施設・機関が整備されつつあるという情報を得た。(i)市内の中心街（Carrer de San Jerónimo）に設立されているカサ・アジア(Casa Asia「アジアの家」)の日本語関連部門、(ii) 国際交流基金によりマドリッド日本文化センターが開設見込み、(iii) スペイン日本語教師会（これまでバルセロナだけには存在したが、全国組織にする見込み）。すでに 2011 年にはそれぞれが軌道に乗り始めていると聞く。総じて日本・日本語に対する関心はかつて見られなかったほどの盛り上がりを見せていると感じる。[この 3 機関については 2011 年 3 月に訪問調査をし改めて報告予定]